

九州厚生局長 殿

国立大学法人佐賀大学
学長 佛淵 孝夫

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	54.42人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	287人	71人	343.8人	看護補助者	48人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	1人	10.8人	理学療法士	13人	臨床検査技師	27人
薬剤師	31人	0人	31人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	14人	1人	14.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	561人	21人	575人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	43人
歯科衛生士	0人	1人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	105人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	28人	その他の職員	14人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	485.6人	12.3人	497.9人
1日当たり平均外来患者数	845.7人	58.1人	903.8人
1日当たり平均調剤数	640.9剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	53人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	47人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	66人	・原発性胆汁性肝硬変	18人
・全身性エリテマトーデス	213人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	73人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	27人
・サルコイドーシス	52人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	154人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	58人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	149人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ピュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	42人	・ライソゾーム病	5人
・クローン病	42人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	5人	・脊髄性筋萎縮症	7人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	71人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	14人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	140人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	7人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	43人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	25人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
立体的心筋細胞構造体による心機能の再生	森田 茂樹	心臓血管外科	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
薬剤溶出性ステント後の再内皮化誘導療法に関する研究	野出 孝一	循環器内科	400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
白血病の生存に対する骨間連細胞の関与	木村 晋也	血液・腫瘍内科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
ω3脂肪酸代謝物の小児喘息に対する能動的消炎機構の解明	濱崎 雄平	小児科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
変形性関節症患者の手術前後のQOLとアクティビティに関する研究	馬渡 正明	整形外科	100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
siRNAによるCaspase抑制を用いた新たな緑内障治療薬の開発	沖波 聡	眼科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
DNA依存性キナーゼを標的とした癌治療の構築と効果予測因子の探索	荒金 尚子	呼吸器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
間葉系幹細胞におけるHLAクラスⅡ分子発現機構の解明と細胞移植療法への応用	一戸 辰夫	血液・腫瘍内科	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
自己抗体産生細胞を標的とした全身性エリテマトーデスの新規治療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
Scaffoldを用いない自己細胞由来心臓弁の作成	古川 浩二郎	心臓血管外科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
前立腺癌細胞の生存・増殖・浸潤における放射線被曝間質細胞の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
唇顎口蓋裂患者における間葉系幹細胞を用いた再生治療の確立	山下 佳雄	歯科口腔外科	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
MRI-ASL法を応用した血管内信号強調灌流画像における実用的有用性の評価	西原 正志	放射線科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
抗うつ薬とBDNFによるミクログリア活性化の制御機構解明・TRPチャネルの関与	溝口 義人	精神神経科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
悪性脳腫瘍におけるメチル化遺伝子とヒストンのメチル化による癌化機構の解明	中原 由紀子	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
心筋細胞の生存・分化・脂肪毒性における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理部	2,340,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
低酸素応答遺伝子HIF-αによるリンパ腫発生促進機構の解析	末岡 榮三朗	検査部	2,470,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
組織工学と幹細胞研究を融合させた新規自己細胞由来人工血管による再生医療	蒲原 啓司	心臓血管外科	2,210,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
幹細胞由来大型心筋移植片の心筋再生効果の解析	野口 亮	心臓血管外科	2,210,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
舌癌の上皮-間葉系移行(EMT)におけるラミニン2鎖発現の意義に関する研究	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
徐放作用を有する網膜接着層を用いた網膜剥離および虚血性網膜疾患の治療法	平田 憲	眼科	2,210,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
喀痰中の結核菌を迅速に検出するイムノクロマト法の開発	永田 正喜	感染制御部	2,470,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
新規細胞表面分子Plxdc2を指標とする造血幹細胞の局在とそのニッチの解明	久保田 寧	血液・腫瘍内科	2,730,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
バックウィズ・ビーデマン症候群の女性ダイゾミー多様性と腎泌尿器症状の関連性の解明	大塚 泰史	小児科	2,340,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
TFF1をターゲットとした胃癌腹膜播種の分子標的治療に向けた基礎的研究	中村 諒	一般・消化器外科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
siRNAによる緑内障モデルラットにおける視神経節保護効果の検討	石川 慎一郎	眼科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎の発症・症状の制御および治療法の確立普及に関する研究	浜崎 雄平	小児科	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学的研究	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
スモンに関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	340,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)

小計
40,140,000

重症度別治療指針作成に資すiLAMの新規ハイパーカー同一定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	原 英夫	神経内科	1,450,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法:基礎から臨床へ	一戸 辰夫	血液・腫瘍内科	680,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
移植細胞源を異にする非血球系血細胞移植の組織適合性に基づく成績向上と移植選抜アルゴリズムの確立に関する研究	一戸 辰夫	血液・腫瘍内科	500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
日本人糖尿病患者併発冠動脈疾患患者において種々の脂質低下・降圧療法の実効性を問うランダム化臨床試験および観察研究	野出 孝一	循環器内科	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
慢性特発性偽性腸閉塞症の我が国における疫学・診断・治療の実態調査研究	藤本 一真	消化器内科	500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	600,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	馬渡 正明	整形外科	400,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	松島 英夫	脳神経外科	400,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	小計 5,930,000
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	中原 由紀子	脳神経外科	400,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)	合計 46,070,000

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol 21:397-405	Therapeutic response of patient with adult still's disease to biologic agents: multicenter results in japan	末松 梨絵	膠原病・リウマチ内科
Clin Dev Immunol 2012:198206	Phenotyping of P105-Negative B Cell Subsets in Patients with Systemic Lupus Erythematosus	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
Clin Dev Immunol 2012:259186	RP105-Negative B Cells in Systemic Lupus Erythematosus	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
Lupus: Symptoms, Treatment and Potential Complications Chapter 2 1-39 2012	Autoantibody-Producing B cells and B cell Therapy in Systemic Lupus Erythematosus-Possible New Targets of Novel Subsets of RP105-Negative B Cells	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
J. Neuroimmunol 233:135-146	Identification of astrocyte-derived immune suppressor factor that induces apoptosis of autoreactive T cells.	原 英夫	神経内科
Vaccine 29: 7474-7482	Mucosal immunotherapy in an Alzheimer mouse model by recombinant Sendai virus vector carrying Abetal-43/IL-10 cDNA.	原 英夫	神経内科
J Stroke Cerebrovasc Dis 20: 214-221	Clinical Characteristics by Topographical Distribution of Brain Microbleeds. With a Particular Emphasis on Diffuse Microbleeds.	薬師寺 祐介	神経内科
Neurol Res 33: 307-313	Leptomeningeal collateral and cerebral hemodynamics in patients with ICA and MCA stenosis-occlusion.	薬師寺 祐介	神経内科
Int J Clin Med 3 (3) : 246-253	Clinical Presentation and Outcome in Patients of over 75 Years Old with Malignant Lymphoma-Clinical Presentation and Outcome in Elderly Lymphoma Patients	福島 伯泰	血液・腫瘍内科
Blood 117(13) : 3675-84	NK314 potentiates anti-tumor activity with adult T-cell leukemia-lymphoma cells by inhibition of dual targets on topoisomerase IIa and DNA-dependent protein kinase.	久富 崇	血液・腫瘍内科
Chem Biol 18(6) : 743-5	Identification of a small molecule inhibitor of DNA topoisomerase II by proteomic profiling	Kawatani M	血液・腫瘍内科
Cancer Lett 312(1) : 91-100	Growth inhibition of imatinib-resistant CML cells with the T3151 mutation and hypoxia adaptation by AV65, a novel Wnt/ β -catenin signaling inhibitor	Nagao R	血液・腫瘍内科
J Thorac Oncol 6(10) : 1639-48	A non-invasive system for monitoring resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors with plasma BRA	Nakamura T	血液・腫瘍内科
Int J Hematol 93(4) : 532-541	Clinical significance of subcategory and severity of chronic graft-versus-host disease evaluated by National Institutes of Health consensus criteria.	Sato T	血液・腫瘍内科

小計4件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Eur J Immunol 41 (1) : 67-75	Galectin-9 ameliorates acute GVH disease through the induction of T-cell apoptosis	Sakai K	血液・腫瘍内科
Cancer Sci 102 (3) : 591-6.	Rakicidin A effectively induces apoptosis in hypoxia adapted Bcr-Abl positive leukemic cells.	Takeuchi M	血液・腫瘍内科
Cancer Lett 312 : 228-234	Rapid automated detection of ABL kinase domain mutations in imatinib-resistant patients	Tanaka K	血液・腫瘍内科
Oncogene 30 (24) : 2789-97	Combined effects of novel heat shock protein 90 inhibitor NVP-AUY922 and nilotinib in a random mutagenesis screen	Tauchi T	血液・腫瘍内科
Int J Hematol 94 (2) : 216-7	Lenalidomide in combination with dexamethasone induced rhabdomyolysis in a multiple myeloma patient treated with pravastatin	浦田 千紗子	血液・腫瘍内科
Oncol Rep 26 (3) : 609-13	Fully Integrated, Automated and Rapid Detection System for KRAS Mutations	Ureshino N	血液・腫瘍内科
J Clin Oncol 29:4410-6	Phase II study of SMILE chemotherapy for newly-diagnosed stage IV, relapsed or refractory extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type: the NK-cell Tumor Study Group (NKTSG) study	amaguchi M	血液・腫瘍内科
Nanomedicine 7 (6) : 889-895	Single-step, label-free quantification of antibody in human serum for clinical applications based on localized surface plasmon resonance	Yamamichi J	血液・腫瘍内科
Intern Med. 50 (5) :389-95.	Effects of aerobic exercise on lipid profiles and high molecular weight adiponectin in Japanese workers.	野出 孝一	循環器内科
Hypertens Res 2011 34 (8) :949-56.	Angiotensin II induces microtubule reorganization mediated by a deacetylase SIRT2 in endothelial cells.	小松 愛子	循環器内科
J Cardiol Jpn Ed. 6 (3) :299-304.	DESの可能性と限界について ベンチテストからの考察	挽地 裕	循環器内科
JACC Cardiovasc Interv. 4 (10) :1057-66.	Vascular inflammation and repair: implications for re-endothelialization, restenosis, and stent thrombosis	野出 孝一	循環器内科
Intern Med. 50 (12) :1273-8.	Potential benefit of statin therapy for dyslipidemia with chronic kidney disease: Fluvastatin Renal Evaluation Trial (FRET).	野出 孝一	循環器内科
Int J Cardiol. 152 (3) :332-6.	Activation of matrix metalloproteinase-9 is associated with mobilization of bone marrow-derived cells after coronary stent implantation.	野出 孝一	循環器内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

J Clin Pharm Ther. 36 (1):103-10.	Inhibition of intestinal cholesterol absorption might explain cholesterol-lowering effect of telmisartan.	野出 孝一	循環器内科
Hypertens Res. 34 (12):1288-94.	Antihypertensive treatment using an angiotensin receptor blocker and a thiazide diuretic improves patients' quality of life: the Saga Challenge Antihypertensive Study (S-CATS).	野出 孝一	循環器内科
Circ J. 75 (8):2013-8; discussion 2026.	Prediction of acute coronary syndrome by using multisllice computed tomography. -Can we predict the onset of acute coronary syndrome? (Pro)-.	野出 孝一	循環器内科
J Cardiol. 2011 Jan;57 (1):2-7. Review.	The role of vascular failure in coronary artery spasm.	Kawano H	循環器内科
Curr Vasc Pharmacol. 9 (2):129-35. Review.	Pleiotropic effects of ARB on dyslipidemia.	野出 孝一	循環器内科
Am J Hypertens. 24 (7):770-4.	Relationships among hyperuricemia, metabolic syndrome, and endothelial function.	野出 孝一	循環器内科
J Biol Chem. 286 (5):3992-4002.	Mitochondrial dysfunction and increased reactive oxygen species impair insulin secretion in sphingomyelin synthase 1-null mice.	野出 孝一	循環器内科
J Cardiol. 2012 Jan;59 (1):91-6.	Cardioprotective effects of low-dose combination therapy with a statin and an angiotensin receptor blocker in a rat myocardial infarction model.	野出 孝一	循環器内科
Biochem Bioph Res Co. 416, 3-4. 391-396	Prolonged effect of fluid flow stress on the proliferative activity of mesothelial cells after abrupt discontinuation of fluid streaming	岸 知哉	腎臓内科
Periton Dialysis Int. 31, 4. 466-476	Fluid flow stress affects peritoneal cell kinetics: possible pathogenesis of peritoneal fibrosis.	佐内 透	腎臓内科
NDT Plus. 4. 5. 307-309	A case of endocapillary glomerulonephritis associated with peripheral blood natural killer cell proliferation	岸 知哉	腎臓内科
Clin Kidney J Jan 30, 70-72, 2012	Masked hyperthyroidism in a haemodialysis patient successfully treated by potassium iodide	佐内 透	腎臓内科
Intern Med 50: 179-188	Safety and efficacy of long-term maintenance therapy with oral dose of rabeprazole 10 mg once daily in Japanese patients with reflux esophagitis.	藤本 一真	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol 36: 1047-1052	NSAIDs is a significant risk factor for colonic diverticular hemorrhage in elder patients: evaluation by a case-control study.	岩切 龍一	消化器内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

J Gastroenterol 47: 284-292, 2012	Rikkunshito improves symptoms in PPI-refractory GERD patients: a prospective, randomized, multicenter trial in Japan.	藤本 一真	消化器内科
Aliment Pharmacol Ther 35: 175-182, 2012	Generation of dyspeptic symptoms by direct acid and water infusion into the stomachs of functional dyspepsia patients and healthy subjects.	藤本 一真	消化器内科
Obesity Research & Clinical Practice 5:e151-e156, 2011	Minute-by-minute stepping rate of daily physical activity in normal and overweight/obese adults	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J. Gastroenterol 46 Suppl 1: 70-78, 2011	The pathological role of visceral fat accumulation in steatosis, inflammation, and progression of nonalcoholic fatty liver disease.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
肝臓 52(2): 112-119, 2011	二相性を有するPeloid type of Hepatocellular carcinomaの1例	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Oncology Reports 26:1385-1392, 2011	Expression patterns of the tumor suppressor PDCD4 and correlation with β -catenin expression in gastric cancers	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepato Res 41:564-571, 2011	Data mining reveals complex interactions of risk factors and clinical feature profiling associated with the staging of non-hepatitis B virus/non-hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J. Gastroenterol 46: 529-535, 2011	Metabolic factors are associated with serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Intern. Med. 50:1415-1418, 2011	Criteria for early identification of aceruloplasminemia	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J. Gastroenterol 46:790-798, 2011	Post-challenge hyperglycemia is a significant risk factor for the development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C.	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Med Sci Monit 17(2):PH7-11, 2011	The incidence of hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C infection decreased in Kyushu area.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepatology 53:532-540, 2011	Effect of vitamin K2 on the recurrence of hepatocellular carcinoma.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Obesity Research & Clinical Practice 5 e143-e150, 2011	Relationships between body fat accumulation, aerobic capacity and insulin resistance in Japanese participants	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Diabetes, Metabolic Syndrome and Obesity: Targets and Therapy 4 35-43, 2011	Relationships between fat deposition in the liver and skeletal muscle and insulin sensitivity in Japanese individuals: a pilot study.	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Obesity Research & Clinical Practice 5:e249-e257. 2011	A 12-week aerobic exercise program without energy restriction improves intrahepatic fat, liver function and atherosclerosis-related factors	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Oncology Reports 25 159-166. 2011	Vitamin K2 augments 5-fluorouracil-induced growth inhibition of human hepatocellular carcinoma cells by inhibiting NF- κ B activation.	岩根 伸治	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Am J Dermatopathol 33: 687-94.	Infundibular (follicular) and infundibulocystic squamous cell carcinoma: a clinicopathological and immunohistochemical study.	三砂 範幸	皮膚科
Am J Dermatopathol 33: 94-97.	Ripple/Carcinoid pattern sebaceoma with apocrine differentiation.	三砂 範幸	皮膚科
Int J Dermatol 50: 1583-1585.	Palisaded neutrophilic granulomatous dermatitis caused by cellulitis in a patient with systemic lupus erythematosus.	三砂 範幸	皮膚科
Eur J Dermatol 21: 422-423.	Eosinophilic cellulitis (Wells' syndrome) and an insect bite-like reaction in a patient with non-Hodgkin B cell lymphoma.	三砂 範幸	皮膚科
Clin Exp Dermatol 36: 874-877.	Histiocytoid and signet-ring cell carcinoma of the axilla: a type of cutaneous apocrine carcinoma equivalent to histiocytoid lobular carcinoma of the breast?	三砂 範幸	皮膚科
J Cutan Pathol 38: 609-615.	CD34 expression in human hair follicles and tricholemmoma: a comprehensive study.	三砂 範幸	皮膚科
J Cutan Pathol 38: 767-774.	Two histopathologic patterns of well-differentiated extraocular sebaceous carcinoma.	三砂 範幸	皮膚科
Eur J Dermatol 21(6): 1001-1002	Generalized granuloma annulare following BCG vaccination, mimicking papular tuberculid.	永瀬 浩太郎	皮膚科
J Clin Oncol 20:29(12):1539-46.	Transcriptome-wide studies of merkel cell carcinoma and validation of intratumoral CD8+ lymphocyte invasion as an independent predictor of survival.	古場 慎一	皮膚科
Acta Derm Venereol 91:602-603	A case of phacomatosis pigmentokeratotic in Japanese monozygotic twins.	多良 明子	皮膚科
Surg today 41(4):526-532	Risk factors for early recurrence after curative hepatectomy for colorectal liver metastases.	池田 時	一般・消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 72(6):1508-1515	非硬変肝に多中心性に発生したNASH由来肝細胞癌の2例	甲斐 敬太	一般・消化器外科

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Nature 2011 Jul 13:475(7355):231-4	Selective killing of cancer cells by a small molecule targeting the stress response to ROS.	井手 貴雄	一般・消化器外科
Breast Cancer	Clinicopathological features of gastric metastasis from breast cancer in three cases	小池 健太	一般・消化器外科
日本臨床 69(6):294-297	胸部食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術	能城 浩和	一般・消化器外科
J Cancer Res Clin Oncol 137(10):1499-1504	Second-line chemotherapy with paclitaxel and doxorubicin after failure of S-1 in elderly patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer.	矢ヶ部 知美	一般・消化器外科
Gastric Cancer 14(4):385-389	An additional suture secures against pitfalls in delta-shaped gastroduodenostomy after laparoscopic distal gastrectomy.	能城 浩和	一般・消化器外科
Virchows Arch 2011 Dec;459(6):573-80. Epub	Clinicopathologic features of advanced gallbladder cancer associated with adenomyomatosis.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Ann Thorac Surg 2012 Jan;93(1):214-20. Epub	Minimally invasive esophagogastrectomy for esophagogastric junctional cancer.	能城 浩和	一般・消化器外科
外科 2011;73(11):1237-1240	腹腔鏡下手術後ドレーン抜去孔に発生した5mmポートサイトヘルニア液嚢の1例	井手 貴雄	一般・消化器外科
消化器外科 2012;35(3):293-300	下部消化管閉塞	梁井 公輔	一般・消化器外科
Eur J Cardiothorac Surg 39(4):465-470	A novel electron paramagnetic resonance spin-probe technique demonstrates the relation between the production of hydroxyl radicals and ischemia-reperfusion injury.	Eto M	胸部・心臓血管外科
Ann Thorac Surg 91(5):e72-73	Real-Time Three-Dimensional Transesophageal Echocardiography is Useful for the Localization of a Small Mitral Paravalvular Leak	吉川 浩二郎	胸部・心臓血管外科
日冠疾患会誌 17(2):94-99	糖尿病合併冠動脈疾患の外科治療	廣谷 隆	胸部・心臓血管外科
日外会誌 11(5):345-348	左心補助人工心臓装着の要点とピットフォール	伊藤 孝	胸部・心臓血管外科
Ann Thorac Surg 9(5):1911-1913	Staged re sternotomy for a retrosternal giant aneurysm of the thoracic aorta using an inferior T-shaped ministernotomy.	蒲原 啓司	胸部・心臓血管外科

生計主任

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

外科 3(6):680-682	孤立性浅大腿動脈瘤の1例	黒木 淳	胸部・心臓血管外科
Circ J 75(8):1821-1822	Remote Ischemic Preconditioning -Is It Time to Introduce It in Clinical Practice?-	森田 茂樹	胸部・心臓血管外科
日血外会誌 20(4):725-728	下大静脈に穿破した腹部大動脈瘤破裂の1例	佐藤 久	胸部・心臓血管外科
胸部外科64(13):1158-1161	右鎖骨下動脈起始異常を伴う弓部大動脈瘤	田中 秀弥	胸部・心臓血管外科
日心血外会誌 41(1):8-11	腹部アングリーナに対する血行再建術の1例	古舘 晃	胸部・心臓血管外科
日血外会誌 21(2):153-156	腹部分枝 debranching 後に上腸間膜動脈塞栓術を追加した腹部大動脈瘤ハイブリッド手術の1例	高松 正憲	胸部・心臓血管外科
Acta Neurochir:	A proposal for standardized analysis of The results of microvascular Decompression for trigeminal neuralgia And hemifacial spasm.	Akinori K	脳神経外科
Jpn J Neurosurg (Tokyo). 20:418-423	側脳室病変に必要な微小外科解剖と手術アプローチ	岡 秀宏	脳神経外科
Neurosurg Rev:	Exposure of the interior of the fourth Ventricle without splitting the vermis: Importance of cutting procedures for the Tela choroidea.	松島 俊夫	脳神経外科
整形外科と災害外科 60(1):112-116	足関節骨折術後にclaw toeを来した一例	塚本 正紹	整形外科
整形外科と災害外科 60(2):266-268	人工膝関節全置換術における在院日数減少に伴う医療連携の拡大において	池邊 智史	整形外科
整形外科と災害外科 60(2):308-311	人工膝関節置換術における肥満度の影響	泉 政寛	整形外科
整形外科と災害外科 60(2):322-324	当科における特発性大腿骨頭壊死症に対する人工物置換術の成績	橋本 哲	整形外科
臨床整形外科46(6):577-580	診断に苦慮した膝関節内方シグロンの1例	秋山 隆行	整形外科

全計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Journal of Spine Research2 (6) : 1100-1102	変形性股関節症と腰部椎間板ヘルニア(坐骨神経痛)におけるPatrick testの検討	森本 忠嗣	整形外科
The Open Orthopaedics Journal 2011(5):134-137	Seasonal trends in the Incidence of Hip Osteoarthritis in Japanese Patients	Nagamine S	整形外科
Comput Methods biomech Biomed Engin 2011;14(1):103-112	The biomechanical effect of the collar of a femoral stem on total hip arthroplasty.	Jeon I	整形外科
The Journal of Orthopaedic science 2011;16(5):652-655	Bipolar hip arthroplasty for subtrochanteric femoral nonunion in an adult with autosomal dominant osteopetrosis Type II : A case report.	園畑 素樹	整形外科
BJU Int. doi 10.1111/j.1464-410X.	Preoperative nomograms incorporating magnetic resonance imaging and spectroscopy for prediction of insignificant prostate cancer.	有働 和馬	泌尿器科
The International Journal of Psychiatry in Medicine. 41(1):71-89.	Donepezil significantly improves abilities in daily lives of female down syndrome patients with severe cognitive impairment: A24-week randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	野口 満	泌尿器科
Cancer Treat Rev. 37(5):366-372.	Small cell carcinoma of the upper urinary tract (UUT-SCC): report of a rare entity and systematic review of the literature.	有働 和馬	泌尿器科
泌尿器外科. 24(8):1361-1363.	ストロンチウム89 (Sr89) 使用後に急速な骨髄抑制をきたした前立腺がんの1例.	徳田 雄治	泌尿器科
Kidney International. 79:135.	The emerging concept of a fibrotic microenvironment in CKD.	有働 和馬	泌尿器科
Radiology. 259(3):775-84.	Diffusion-weighted endorectal MR imaging at 3 T for prostate cancer: tumor detection and assessment of aggressiveness.	有働 和馬	泌尿器科
PEPARS 56:62-68	アートの考えを組み込んだ形成外科の3次元形態学	上村 哲司	形成外科
Journal of Controlled Release 149:190-195	Ultrasound activation of Tio ₂ in melanoma tumors	原田 峻美	形成外科
PEPARS 58:89-94	下肢のlocal flap method	苅部 大輔	形成外科
Acta Radiol. 52. 236-240	High b-value diffusion-weighted MRI in differentiation between benign and malignant polypoid gallbladder lesions	入江 裕之	放射線科

小計4件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Hepatp-Gastroenterology 58:395-399.	Aneurismal type of colorectal cancer: imaging characteristics of gastrointestinal endoscopy, computed tomography and magnetic resonance imaging.	水口 昌伸	放射線科
Am J Roentgenol. 197. #643-652	MRI findings of mediastinal neurogenic tumors	Nakazono T	放射線科
Eur J Radiol. :80 (3) :e557-62.	Arterial spin-labeling MR imaging in moyamoya disease compared with SPECT imaging.	野口 智幸	放射線科
J Gynecol Oncol. 2011 Dec;22 (4) :275-87.	Diffusion-weighted MR imaging in gynecologic cancers.	Motoshima S	放射線科
Am J Roentgenol. 198. 364-369	HIV-related cardiac complications: CT and MRI findings.	Nakazono T	放射線科
Jpn J Radiol. 30 (2):137- 45.	Arterial spin-labeling magnetic resonance imaging: the timing of regional maximal perfusion-related signal intensity revealed by a multiphase technique.	野口 智幸	放射線科
Acad Radiol 18:12 1492-9.	Simultaneous arterial spin labeling cerebral blood flow and morphological assessments for detection of Alzheimer's disease.	門司 晃	精神神経科
Schizophr Res. 129:2-3 172-182	Aripiprazole inhibits superoxide generation from phorbol-myristate-acetate (PMA)-stimulated microglia in vitro: implication for antioxidative psychotropic actions via microglia.	門司 晃	精神神経科
Mini Rev Med Chem. 11:7 565-574	Anti-inflammatory properties of antipsychotics via microglia modulations: are antipsychotics a 'fire extinguisher' in the brain of schizophrenia?	門司 晃	精神神経科
Mini Rev Med Chem. 11:7 575-581	Possible role of BDNF-induced microglial intracellular Ca ²⁺ elevation in the pathophysiology of neuropsychiatric disorders	溝口 義人	精神神経科
J Neuropsychiatry Clin Neurosci 23:4 E14-5	Visual and auditory hallucinations during normal use of paroxetine for treatment of major depressive disorder.	門司 晃	精神神経科
International journal of geriatric psychiatry Mar;27 (3) :321-6. doi: 10.1002/gps.2729. Epub 2011 Apr 27	Association of saliva 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol levels and a later depressive state in older subjects living in a rural community: 3-year follow-up study.	Watanabe I	精神神経科
Psychiatry research Jul 28. [Epub ahead of print]	Baseline saliva level of 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol (MHPG) associates with a consequent cognitive decline in non-demented elderly subjects :Three years follow-up study.	Watanabe I	精神神経科
Allergy Int 60:147- 169. 2011	Japanese guideline for childhood asthma	Nishimura T	小児科

小計4件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

Epilepsy & Behavior (2011) 20: 524-7.	Characterization of childhood-onset complex partial seizures associated with autism spectrum disorder.	松尾 宗明	小児科
Clin Nephrol. 2011 Mar;75 (3) :255-62.	A notable case report of May-Hegglin anomaly with immune-complex-related nephropathy: a genetic and histological analysis.	大塚 泰史	小児科
Experimental Lung Research. 2011. 37 (8). 461-470	Epigen is induced during the interleukin-13-stimulated cell proliferation in murine primary airway epithelial cells.	Taniguchi K	小児科
日本臨床麻酔学会誌. 31: 531-537. 2011	エピドラスコピーのこれまで、そしてこれから エピドラスコピーの今後の課題	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科
Cardiovascular Anesthesia. 15 (1): 167-172. 2011	異型動脈縮窄型大動脈炎症候群において術中循環動態の変動をFlotracTM/VigileoTMとPACで比較した1例	谷川 義則	麻酔科蘇生科
臨床麻酔. 35 (1): 50-52. 2011	肺動脈カテーテルによる肺動脈損傷が原因と考えられた大量の気管内出血をきたした1症例	谷川 義則	麻酔科蘇生科
Biochemical and Biophysical Research Communications. 418: 695-700. 2012	Actions of a novel water-soluble benzodiazepine-receptor agonist JM-1232 (-) on synaptic transmission in adult rat spinal substantia gelatinosa neurons	上村 聡子	麻酔科蘇生科
麻酔. 61 (2): 138-142. 2012	下行大動脈人工血管置換術における左胸腔チューブ留置困難は気管分岐部の性状で予測できる。	七村 聡子	麻酔科蘇生科
臨床栄登. 120 (1): 59-63. 2012	周術期体液管理における経口補水療法的作用	三根 奈々	麻酔科蘇生科
臨床麻酔. 36 (3): 543-544. 2012	先天性骨形成不全症の妊婦に対する帝王切開術の麻酔経験	高松 千洋	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌. 32 (2): 260. 2012	第11回エピドラスコピー研究会を開催して	平川奈緒美	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌. 32 (2): 296-300. 2012	エピドラスコピーのコストに関する調査-先進医療施設と先進医療を申請していない施設との比較-	石川 亜佐子	麻酔科蘇生科
Int J Clin Oncol	Subsequent risks for cervical precancer and cancer in women with low-grade squamous intraepithelial lesions unconfirmed by colposcopy-directed biopsy: results from a multicenter, prospective, cohort study.	Matsumoto K	産科婦人科
Case Reports in Pathology	Tuberous Sclerosis Complex Associated with Papillary Serous Carcinoma of the Peritoneum, Lymphangiomyomatosis, and Angiolipoma.	Wakamiya T	産科婦人科

合計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

International Journal of Cancer	Predicting the progression of cervical precursor lesions by human papillomavirus genotyping: a prospective cohort study	Matsumoto K	産科婦人科
Int J Gynecol Cancer	HLA class II DRB1*1302 allele protects against progression to cervical intraepithelial neoplasia grade 3: a multicenter prospective cohort study.	Matsumoto K	産科婦人科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 249:1409-1415	Occurrence of capsular delamination in the dislocated in-the-bag intraocular lens.	平田 憲	眼科
J Cataract Refract Surg 37:1419-25	Cataract surgery in eyes with low corneal endothelial cell density.	Hayashi K	眼科
J Cataract Refract Surg 37:97-103	Anterior capsule relaxing incisions with neodymium:YAG laser for patients at high-risk for anterior capsule contraction.	Hayashi K	眼科
Am J Ophthalmol 15:858-865	Long-Term Change in Corneal Astigmatism After Sutureless Cataract Surgery.	Hayashi K	眼科
あたらしい眼科 28: 571-575	プロスタグランジン関連眼圧降下薬で惹起された前部ぶどう膜炎	山本 聡一郎	眼科
臨眼 65: 757-760	眼科部門システム電子カルテ導入後の紙カルテ使用状況の推移	石川 慎一郎	眼科
眼科 53: 927-930	IgA 腎症患者に合併したぶどう膜炎	清武 良子	眼科
眼科 53: 1037-1040	ラニビズマブ硝子体内注射後に眼内炎をきたした1例	岩切 亮	眼科
臨眼 65: 1645-1649	心因性視覚障害と診断されていたAZOORの1例	大野 新一郎	眼科
眼臨紀 5:5-8	遷延性中心性漿液性脈絡網膜症および多発性後極部網膜色素上皮症に対する光線力学的療法の治療成績	後藤 あかね	眼科
眼臨紀 5:229-232	眼動脈閉塞により両眼失明に至った眼虚血症候群の1例	高橋 峰光	眼科
Auris Nasus Larynx doi: 10.1016/j.aml.2011.10.015. Available online 21 November 2011.	Pathological characteristics of the epiglottis relevant to acute epiglottitis.	佐藤 慎太郎	耳鼻咽喉科

小計11件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

診断病理 28(3) 171-177.	肝腫瘍として発見された多形腺腫由来癌の術後肝転移の1例	甲斐 敬太	耳鼻咽喉科
PAIN RESEARCH. 26. 3. 157-168	Facilitatory effect of eugenol on excitatory synaptic transmission in rat spinal substantia gelatinosa neurons	井上 将成	歯科口腔外科
The Journal of Functional Diagnosis of the Spinal Cord	Effect of eugenol on glutamatergic excitatory synaptic transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons	井上 将成	歯科口腔外科
日本口腔腫瘍学会誌 23巻4号155-160頁	舌癌の頸部再発が強く疑われた放線菌感染を伴う顎表皮嚢胞の1例	森 啓輔	歯科口腔外科
顎顔面インプラント誌 10:45-51	解剖体を用いた上顎洞形態に関する研究—上顎洞内外側壁のなす角度の計測—	内田 雄基	歯科口腔外科
Int J Oral Maxillofac Surg. Vol. 40. 360-365.	A long-term comparative study of two rigid internal fixation techniques in terms of masticatory function and neurosensory disturbance after mandibular correction by bilateral sagittal split ramus osteotomy.	山下佳雄	歯科口腔外科
日本口蓋裂学会雑誌 Vol. 36(1) p26-32	顎裂骨移植部へのデンタルインプラントの使用	山下佳雄	歯科口腔外科
日本口腔科学会雑誌 Vol. 60(3) p226-231	関節突起骨折に対してretromandibular approachを用いた観血的整復固定術の検討	山下佳雄	歯科口腔外科
日本顎顔面インプラント学会誌 Vol. 10 p63-68	下顎骨再建に用いた移植骨へ埋入したインプラント周囲骨の経時的変化	山下佳雄	歯科口腔外科
救急医学 35: 1335-1338	疾患別救急薬剤ベストプラクティス 消化器疾患 (3) 汎発性腹膜炎	阪本 雄一郎	救命救急センター
日本腹部救急医学会雑誌31 (4) : 643-646	肝損傷の治療戦略-施設間格差の問題点をふまえて-	阪本 雄一郎	救命救急センター
Thrombosis Medicine 3 vol. 3 no. 1 2012 95	- 外傷に伴うDIC - 「外傷性DICの治療」	阪本 雄一郎	救命救急センター
J. Clin. Biochem. Nutr. 50. 78-83	Exogenously-added copper/zinc superoxide dismutase rescues damage of endothelial cells from lethal irradiation	Tominaga T	救命救急センター
Eur J Pharmacol 672 : 153-158	Ghrelin ameliorates bleomycin-induced acute lung injury by protecting alveolar epithelial cells and suppressing lung inflammation	Imazu Y	総合診療部

小田田性

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

J Gastroenterol 46: 1300-1306	Platelet count for predicting fibrosis in nonalcoholic fatty liver disease	Yoneda M	総合診療部
World J Gastroenterol. 17(7): 914-921	Body mass index is associated with age-at-onset of HCV- infected hepatocellular carcinoma patients.	Akiyama T	総合診療部
International Journal of Advanced Computer Science and Applications	Extraction of line features from multifidus muscle of CT scanned images with morphologic filter together with wavelet multi resolution analysis	Arai K	総合診療部
J Gastroenterol 46: 419-420	Reply to the letter by L. Filik regarding "Visceral and subcutaneous fat accumulation and nonalcoholic fatty liver disease".	江口 有一郎	総合診療部
内科 108 (3) : 541-543	ステロイド内服中の Sjogren 症候群患者に生じたヘルペス咽頭・食道炎の1例	朝長 元輔	総合診療部
臨床検査 55巻6号 Page581-586	脂肪組織を基盤とした生体恒常性・メタボリックシンドローム病態解析モデル	戸田 修二	病理部
臨床検査 55巻6号 Page533-538	脂肪組織と脂肪細胞の基礎形態学	戸田 修二	病理部
腎と透析71巻別冊 腹膜透析 Page302-304	腹膜透析の流体刺激は被嚢性腹膜硬化症の主役なのか	青木 茂久	病理部
Journal of Bioanalysis and Biomedicine Doi:10.4172/1948-593X.33-011	Application of Beta-lactam Therapeutic Drug Monitoring in Clinical Practice Using HPLC	青木 洋介	感染制御部
J Infect Chemother 17: 510-523	Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Japanese Society of Chemotherapy in 2008:	青木 洋介	感染制御部
J Infect Chemother 17: 407-411	The importance of pharmacokinetic consultation of cefepime treatment for Pseudomonas aeruginosa bacteremia: a case report of severe thermal burn injury.	青木 洋介	感染制御部
日本内科学会雑誌	抗菌薬療法の実際	永田 正喜	感染制御部
日本化学療法学会誌 62 (2) : 188 - 192	医療関連肺炎	永田 正喜	感染制御部
医療の質・安全学会誌	感染症診療と感染管理の有機的な連携とは	青木 洋介	感染制御部

小計14件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

癌と化学療法 89.1.69-73	シスプラチンに対するアプレピクントの制吐効果	矢野部 知美	薬剤部	小計14件 合計183 件
----------------------	------------------------	--------	-----	---------------------

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮崎 耕治		
管理担当者氏名	総務課長：潮田 尚次	患者サービス課長：阿部 博美	薬剤部長：藤戸 博
	看護部長：長谷川 正志	放射線部長：松島 俊夫	診療記録センター：成澤 寛

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 患者サービス課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターにおいて、1患者1ファイルで集中管理している。 エックス線写真は、放射線部において集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	患者サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	患者サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者サービス課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の第一項各号及び第九条の二十	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	

	三 第 一 項 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課
--	--	---------

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	保管場所	分類方法
	第一条	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課 感染制御部
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
	第一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
	に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター
	体制の確保の		
	状況		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長	岩村 和彦
閲覧担当者氏名	患者サービス課長	阿部 博美
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.4%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,003人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,165人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,998人
	D: 初診の患者の数		20,046人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																																										
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針」添付</p>																																											
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																										
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」、「医療安全管理委員会名簿」添付</p>																																											
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 8 回																																										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="225 1429 1362 2020"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修内容（テーマ・講師）</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回「大規模災害発生時の院内初期対応について」 （阪本 雄一郎 教授（救急医学講座））</td> <td>平成23年 6月15日（0.5時間）</td> <td rowspan="6">1,055 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成23年 6月27日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>”</td> <td>平成23年 6月28日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>”</td> <td>平成23年 6月29日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>”</td> <td>平成23年 6月30日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>”</td> <td>平成23年 7月 1日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第2回「呼吸管理と安全対策」 （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー呼吸器内科））</td> <td>平成23年 9月 6日（0.5時間）</td> <td rowspan="6">1,123 名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成23年 9月21日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>”</td> <td>平成23年 9月26日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>”</td> <td>平成23年 9月27日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月28日（0.5時間）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>”</td> <td>平成22年 9月29日（0.5時間）</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数	1	第1回「大規模災害発生時の院内初期対応について」 （阪本 雄一郎 教授（救急医学講座））	平成23年 6月15日（0.5時間）	1,055 名	2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成23年 6月27日（0.5時間）	3	”	平成23年 6月28日（0.5時間）	4	”	平成23年 6月29日（0.5時間）	5	”	平成23年 6月30日（0.5時間）	6	”	平成23年 7月 1日（0.5時間）	7	第2回「呼吸管理と安全対策」 （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー呼吸器内科））	平成23年 9月 6日（0.5時間）	1,123 名	8	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成23年 9月21日（0.5時間）	9	”	平成23年 9月26日（0.5時間）	10	”	平成23年 9月27日（0.5時間）	11	”	平成22年 9月28日（0.5時間）	12	”	平成22年 9月29日（0.5時間）
	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数																																								
1	第1回「大規模災害発生時の院内初期対応について」 （阪本 雄一郎 教授（救急医学講座））	平成23年 6月15日（0.5時間）	1,055 名																																								
2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成23年 6月27日（0.5時間）																																									
3	”	平成23年 6月28日（0.5時間）																																									
4	”	平成23年 6月29日（0.5時間）																																									
5	”	平成23年 6月30日（0.5時間）																																									
6	”	平成23年 7月 1日（0.5時間）																																									
7	第2回「呼吸管理と安全対策」 （林 真一郎 診療教授（RSTリーダー呼吸器内科））	平成23年 9月 6日（0.5時間）	1,123 名																																								
8	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成23年 9月21日（0.5時間）																																									
9	”	平成23年 9月26日（0.5時間）																																									
10	”	平成23年 9月27日（0.5時間）																																									
11	”	平成22年 9月28日（0.5時間）																																									
12	”	平成22年 9月29日（0.5時間）																																									

13	第3回「MRI安全性の考え方」(野口智幸 講師 放射線科) 「薬剤管理指導における医薬品相互作用」(江本 晶子 服薬指導 管理主任)	平成23年12月 6日 (0.5時間)	991 名
14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年12月15日 (0.5時間)	
15	"	平成23年12月19日 (0.5時間)	
16	"	平成23年12月20日 (0.5時間)	
17	"	平成23年12月21日 (0.5時間)	
18	"	平成23年12月22日 (0.5時間)	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生的事象に関連する部署とGRMで対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

- 平成23年 7月19日 手術部安全確認表の変更について
- 平成23年 7月19日 人工呼吸器用カテーテルマウント(フレックスチューブ)の変更
- 平成23年 7月19日 手術に関連したガーゼなど異物遺残防止のためのレントゲン撮影について
- 平成23年 7月19日 麻薬貼付剤の取り扱いについて
- 平成23年 8月25日 手術部安全確認表について
- 平成23年 8月25日 医療安全院内ラウンドの開始について
- 平成23年10月18日 経口抗血栓剤中止の一般的目的について
- 平成23年10月18日 廃棄麻薬処方箋の薬剤部麻薬室への返却について
- 平成23年11月17日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
- 平成23年11月17日 医療相談室監視システムの変更について
- 平成23年12月 2日 術後X線撮影の読影依頼と安全確認票記入について
- 平成23年12月15日 院内の緊急放送について
- 平成23年12月15日 大規模災害対応訓練(図上演習訓練)の実施について(平成24年 1月26日実施)
- 平成24年 2月16日 入院患者の無断離院に関する対応について
- 平成24年 2月16日 心電図モニタの適正な使用とアラーム対応について
- 平成24年 3月15日 医療安全管理マニュアルの改訂について
- 平成24年 3月15日 簡易型ナースコールについて
- 平成24年 3月15日 医療安全ポスターについて
- 平成24年 4月19日 医療安全管理マニュアルの改訂について
- 平成24年 4月19日 医療安全管理ポケットマニュアルの改訂について
- 平成24年 6月19日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (19) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと。 (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (6) その他医療安全対策の推進に関すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無																																																													
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針」添付</p>																																																														
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																																																													
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染対策委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程」、「院内感染対策委員会名簿」添付</p>																																																														
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年18回																																																													
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="231 1310 1420 1982"><thead><tr><th></th><th>研修内容(テーマ・講師)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>第1回「カテーテル関連血流感染予防策」(感染制御部スタッフ)</td><td>平成23年 6月15日 (0.5時間)</td><td rowspan="6">1,055 名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成23年 6月27日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>3</td><td>"</td><td>平成23年 6月28日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>4</td><td>"</td><td>平成23年 6月29日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>5</td><td>"</td><td>平成23年 6月30日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>6</td><td>"</td><td>平成23年 7月 1日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>7</td><td>第2回「「結核」の感染予防策」(感染制御部スタッフ)</td><td>平成23年 9月 6日 (0.5時間)</td><td rowspan="6">1,123 名</td></tr><tr><td>8</td><td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成23年 9月21日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>9</td><td>"</td><td>平成23年 9月26日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>10</td><td>"</td><td>平成23年 9月27日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>11</td><td>"</td><td>平成23年 9月28日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>12</td><td>"</td><td>平成23年 9月29日 (0.5時間)</td></tr><tr><td>13</td><td>第3回「忘年会シーズンに注意すべき感染症」(感染制御部スタッフ)</td><td>平成23年12月 6日 (0.3時間)</td><td rowspan="6">920 名</td></tr><tr><td>14</td><td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成23年12月15日 (0.3時間)</td></tr><tr><td>15</td><td>"</td><td>平成23年12月19日 (0.3時間)</td></tr><tr><td>16</td><td>"</td><td>平成23年12月20日 (0.3時間)</td></tr><tr><td>17</td><td>"</td><td>平成23年12月21日 (0.3時間)</td></tr><tr><td>18</td><td>"</td><td>平成23年12月22日 (0.3時間)</td></tr></tbody></table>			研修内容(テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第1回「カテーテル関連血流感染予防策」(感染制御部スタッフ)	平成23年 6月15日 (0.5時間)	1,055 名	2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年 6月27日 (0.5時間)	3	"	平成23年 6月28日 (0.5時間)	4	"	平成23年 6月29日 (0.5時間)	5	"	平成23年 6月30日 (0.5時間)	6	"	平成23年 7月 1日 (0.5時間)	7	第2回「「結核」の感染予防策」(感染制御部スタッフ)	平成23年 9月 6日 (0.5時間)	1,123 名	8	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年 9月21日 (0.5時間)	9	"	平成23年 9月26日 (0.5時間)	10	"	平成23年 9月27日 (0.5時間)	11	"	平成23年 9月28日 (0.5時間)	12	"	平成23年 9月29日 (0.5時間)	13	第3回「忘年会シーズンに注意すべき感染症」(感染制御部スタッフ)	平成23年12月 6日 (0.3時間)	920 名	14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年12月15日 (0.3時間)	15	"	平成23年12月19日 (0.3時間)	16	"	平成23年12月20日 (0.3時間)	17	"	平成23年12月21日 (0.3時間)	18	"	平成23年12月22日 (0.3時間)
	研修内容(テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																																											
1	第1回「カテーテル関連血流感染予防策」(感染制御部スタッフ)	平成23年 6月15日 (0.5時間)	1,055 名																																																											
2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年 6月27日 (0.5時間)																																																												
3	"	平成23年 6月28日 (0.5時間)																																																												
4	"	平成23年 6月29日 (0.5時間)																																																												
5	"	平成23年 6月30日 (0.5時間)																																																												
6	"	平成23年 7月 1日 (0.5時間)																																																												
7	第2回「「結核」の感染予防策」(感染制御部スタッフ)	平成23年 9月 6日 (0.5時間)	1,123 名																																																											
8	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年 9月21日 (0.5時間)																																																												
9	"	平成23年 9月26日 (0.5時間)																																																												
10	"	平成23年 9月27日 (0.5時間)																																																												
11	"	平成23年 9月28日 (0.5時間)																																																												
12	"	平成23年 9月29日 (0.5時間)																																																												
13	第3回「忘年会シーズンに注意すべき感染症」(感染制御部スタッフ)	平成23年12月 6日 (0.3時間)	920 名																																																											
14	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成23年12月15日 (0.3時間)																																																												
15	"	平成23年12月19日 (0.3時間)																																																												
16	"	平成23年12月20日 (0.3時間)																																																												
17	"	平成23年12月21日 (0.3時間)																																																												
18	"	平成23年12月22日 (0.3時間)																																																												

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や確認を行っている。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無						
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回						
・ 研修の主な内容： <table border="1"><thead><tr><th></th><th>研修内容 (テーマ・講師)</th><th>研修期間</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>「薬剤管理指導における医薬品相互作用」</td><td>平成23年12月6日 (1時間)</td></tr></tbody></table>			研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	1	「薬剤管理指導における医薬品相互作用」	平成23年12月6日 (1時間)
	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間					
1	「薬剤管理指導における医薬品相互作用」	平成23年12月6日 (1時間)					
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況							
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none">(1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。(2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。(3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。(4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。(5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。(6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けいている。(7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。(8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。(9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。(10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。							
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況							
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品に係る添付文書等の収集方法として、厚生労働省医薬食品局監修 Drug Safety Update 医薬品安全対策情報 (DSU) による変更点の収集およびメーカーへの変更後の添付文書の送付を依頼している。</p> <p>また、得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して、小冊子「薬局からのお知らせ」を月に1回発行し、各病棟、各診療科へ配布。その中にDSUも含めている。その他にも、緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ配布している。</p>							

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 2 回
・ 研修の主な内容： 人工心肺装置および補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用エネルギー放射線治療装置、診療用放射線照射装置の安全使用のための研修を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (①・無) ・ 保守点検の主な内容： (医療機器関係) 点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるものの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。 (放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全性点検、機械的安全性点検、予防的点検等、保守点検表を作成し行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 【収集方法を具体的に記入】 (医療機器関係) ・ 平成23年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。 (1) 平成23年度 全国国立大学法人病院診療支援部(技術部)会議(平成23年10月、大阪大学) (2) 平成23年度 HOSPEXJapan2011 日本医療福祉設備展学会(平成23年11月、東京) (3) 獨協医科大学病院医療機器管理システム施設見学(平成23年12月、東京) (4) 第4回全国国立大学法人病院臨床工学技士協議会(平成24年1月、三重大学) ・ 各製造業者より安全情報が提供される。 ・ 医薬品医療機器等安全性情報(厚生労働省ホームページ)及び医療機器関連情報(医薬品医療機器総合機構ホームページ)より情報収集を行っている。	

- (放射線関係)
- ・各製造業者より安全情報が提供される。
- ・医療機器等安全情報(厚生労働省ホームページ)及び医療機器関連情報
- (医薬品関係)
- ・製造業者より安全情報が提供される。
- ・平成23年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集を行った。
- 第67回日本放射線技術学会(平成23年4月 横浜 震災にてWeb開催)
- 平成23年度第1回粒子線がん治療入門セミナー(平成23年7月 福岡)
- 医学物理講習会・放射線治療品質管理講習会(平成23年9月 福岡)
- 平成23年度九州地域放射線技術大会(平成23年9月 福岡)
- 第27回放射線技師総合学術大会(平成23年9月 青森)
- 慶応義塾大学がんプロセスショナル養成プラン第6回高精度放射線治療の基礎知識再構築コース(平成23年 10月)
- 第6回九州放射線医療技術学術大会(平成23年11月 鹿児島)
- 第50回放射線治療研究会(平成23年11月 鹿児島)
- 第10回放射線治療システム研究会(平成24年1月 福岡)
- 第31回筑後放射線腫瘍懇話会(平成24年2月 久留米)
- 第1回放射線治療・物理学セミナー(平成24年2月 東京)

【提供・周知方法を具体的に記入】

- (医療機器関係)
- ・製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者へ閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・院内各部文書へはWeb及び印刷で院内環境を構築している。また、医療機器情報提供ホームページ及び各種情報を提供する環境を構築している。

(放射線関係)

- ・学会等の報告会を行い、周知している。
- ・製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・放射線部情報システム(RIS)を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針

平成16年4月1日
制 定

第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方

事故のない安全な医療を提供していくためには、医療従事者一人一人が危機意識を持って、日々の患者の診療に当たると同時に、医療に係る知識や技術を一定のレベル以上に保つことが不可欠である。

しかし、大学病院のように巨大で複雑なシステムの下で行なわれている医療においては、経験豊富な医療従事者であっても、うっかりミスや医療事故を起こすことがある。また些細なミスがいくつも重なり合うような、あるいはシステムに原因するような複合要因によって重大な事故が引き起こされる危険がある。

このため医療においても「人間はエラーを起こす」という前提に基づき、エラーを誘発しない環境や起こったエラーを吸収して事故を未然に防ぐ体制を構築していく。

第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

本院における医療安全管理に関する基本的な考え方を踏まえて、病院長は、医療に係る安全管理のための体制を確保するため、次の委員会等を設置する。

(医療安全管理委員会)

本院内の安全管理の体制の確保及び推進のために設けるもので、医療安全対策に関する重要事項等について審議し、方針を決定する機関である。

なお、同委員会は、院内感染対策委員会や医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者などの他の関連組織と連携を取り、効率的かつ効果的な医療安全対策を講じるものとする。

(医療安全管理室)

医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の安全管理を担う部門である。

(医療安全管理者)

医療安全管理室に所属し、同室の業務に関する企画立案及び評価、並びに職員の安全管理に関する意識の向上や指導等の業務を行うなど病院全体の安全管理を担当する者である。

(セイフティマネジャー)

所属する部署のインシデント・アクシデント情報を把握し、医療安全管理者への報告及び連絡調整を行う。また、当該安全対策の決定方針に基づく改善策等について所属職員に周知徹底を図るとともに、それらが確実に実施され、かつ安全対策として有効に機能しているか常に点検・評価するなど各部署単位での安全対

策を推進する者である。

(セイフティマネジャー連絡会議)

セイフティマネジャー及び医療安全管理室の正副室長で構成され、本院でのインシデント事例等及び安全対策の決定方針に基づく改善策などの情報を共有し、セイフティマネジャーに周知徹底を図る部会である。

第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針

- ・ 病院長は、個々の職員の安全管理に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する医療安全管理に関する内容についての研修を年2回以上定期的に開催する。
- ・ 病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の安全管理に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- ・ 本院内で発生したインシデント等の報告は、まず、全職員を対象とした「インシデント・アクシデント速報システム（Web ページ）」を利用して行い、基本的に医療事故につながる可能性のある事例等を早期に広く収集し、これらインシデント事例等を活用した医療に係る安全の確保を図るものとする。
- ・ このために、医療安全管理室は、医療安全管理委員会への報告等、予め定められた報告体制に従い事例を収集、分析することにより安全管理に関する問題点を把握して、病院組織としての改善策の企画立案やその実施状況を評価するものとし、これら必要な情報を関係各部署へフィードバックしていく。
- ・ なお、インシデント事例等に対し主体的・積極的な報告は、各医療従事者がお互いに「事例に学ぶ」という姿勢を堅持するという認識と職場環境のもとで行われ、また、原因分析に際しては、「誰が」ではなく、「何が」「何故」起きたかに視点を置くものとする。

第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- ・ 医療事故等が医療側の過失によるか否かを問わず、患者に望ましくない事象が発生した場合は、本院内の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。
- ・ 事故発生後、可及的速やかに、事故の状況、現在実施している処置、予後等について患者本人、家族等に誠意をもって説明をする。
- ・ 重大な事故の発生時には、速やかに病院長へ報告する。
- ・ 事故の場合にあつての報告は、診療録等に基づき作成する。

- ・ その他医療事故等発生時の対応については、本院「医療安全管理マニュアル」の「医療事故等発生時における対応指針」に沿って対応する。

第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。）

本指針（本院ホームページ掲載）の内容を含め、医療従事者は患者との情報の共有に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

第7 患者からの相談への対応に関する基本方針

- ・ 医療行為等に関する患者等からの相談に対しては、担当者及びその責任者などを決め、誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮を講じる。
- ・ これら相談は、速やかに病院長等へ報告し、また、本院の安全対策等の見直しに活用していくものとする。

第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全の推進のために、「医療安全管理マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請等に応じて、また第三者機関の評価、患者の参加等を通じて常に改訂・改善を図っていくものとする。

附 則

この指針は、平成14年12月19日から施行する。

附 則（平成15年10月1日改正）

この指針は、平成15年10月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日改正）

この指針は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月25日改正）

この指針は、平成19年6月25日から施行する。

附 則（平成20年3月21日改正）

この指針は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年6月1日改正）

この指針は、平成21年6月1日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

〔平成16年4月1日
制 定〕

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理の体制の確保及び推進のため、佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。
- (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。
- (4) その他医療安全管理に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 医療安全管理室長
- (3) 医療安全管理室副室長（医療安全管理者）
- (4) 診療科の科長のうち若干人
- (5) 中央診療施設等の部長等のうち薬剤部長（医薬品安全管理責任者）及びM E センター長（医療機器安全管理責任者）を含む若干人
- (6) 看護部長
- (7) 事務部長
- (8) その他必要の都度病院長が指名した者

2 前項第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。

3 第1項第4号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席をもって開き、その議決は、出席委員の過半数の同意による。

(代理出席)

第6条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができる。

(他の委員会との連携)

第8条 委員会は、院内感染対策の推進に関することについては「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会」において審議・策定させる分業体制をとる。但し、同委員会における重要な検討内容については、病院長へ報告することとする。

(事務)

第9条 委員会における資料及び議事録の作成並びに保存、その他庶務に関することは医療安全管理室において行う。

2 その他委員会に関する事務は、患者サービス課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年10月27日改正)

この規程は、平成17年10月27日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

附 則 (平成20年3月21日改正)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

医療安全管理委員会（平成24年度）

* は併任を示す

	氏名	役職等	任期等
委員長	宮崎 耕治		
病院長	後藤 昌昭		
医療安全管理室長	朽方 規喜		
医療安全管理室副室長	吉田 ひとみ		
医療安全管理室副室長	山口 今日子		
各診療科の科長のうち若干人	魚住 二郎	泌尿器科長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
	藤本 一真	消化器内科長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
	阪本 雄一郎	救急科長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
中央診療施設等の部長のうち薬剤部長(医薬品安全管理責任者)及びMEセンター長(医療機器安全管理者)を含む若干人	藤戸 博	薬剤部長	
	後藤 昌昭*	MEセンター長	
	森田 茂樹	手術部長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
	松島 俊夫	放射線部長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
	木村 晋也	がんセンター長	26年3月まで(病院長指名、任期2年)
	長谷川 正志		
看護部長	岩村 和彦		
事務部長	—		
その他必要の部度 病院長が指名した者	—		
	14名		

再任を妨げない

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針

(平成 19 年 6 月 19 日制定)

第 1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方

院内感染は患者が多大なる不利益を被るのみでなく、人的・経済的に医療財源を圧迫し、結果として医療の質そのものを著しく低下させる。このため、院内感染を未然に防ぐ手段を恒常的に院内で周知・遵守すると同時に、診療科横断的に発生する感染症に専門的診療を行うことが不可欠である。加えて、医療スタッフの職業感染曝露を防止することが必要である。

これらの目的のために、当院では専任スタッフで構成される感染制御部を感染対策の中核的機能として常置する。ここでは病原菌の院内疫学的解析に基づく医療関連感染の制御と防止に努める一方、専門医による感染症診療を全診療科に提供することにより、感染対策と感染症診療が常に相補的に機能する体制の維持・向上を可能とする院内感染対策を構築する。

第 2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

(院内感染対策委員会)

- ・ 院内感染対策委員会は、本院における院内感染対策に関して必要なことを審議する。

(感染制御部)

- ・ 院内感染対策委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の感染対策を担う部門である。

(感染対策専任看護師長)

- ・ 感染制御部門の業務に関する企画立案および評価、病院内における職員の院内感染対策に関する意識の向上や指導の業務を行う者である。

第 3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針

(院内研修)

- ・ 病院長（管理者）は、個々の職員の院内感染対策に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する院内感染防止に関する内容についての研修を年 2 回以上定期的に開催する。
- ・ 病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の院内感染対策に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針

- ・届出が必要な感染症が発生した場合は、感染制御部の指導・援助の下、主治医名で速やかに報告する。
- ・抗菌薬耐性菌を含む病原菌の分離状況については微生物検査室から感染制御部に定期的に報告を受け、サーベイランスを実施し、アウトブレイクに対応する。

第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染が発生した場合の対応は原則として次に定めるところによる。

- (1) 院内感染発生現場の医療従事者、あるいは微生物検査室からの報告に基づき、感染制御部スタッフが感染症発生状況の解析を迅速に行い、考えられる感染症の制御に必要な一次措置を直ちに講じる。
- (2) 前号の措置後、感染制御部長または副部長は、当該感染症の発生について病院長、診療科長、看護部長および事務部長にただちに報告する。
- (3) 病院長等は院内感染が発生した場合には、必要に応じて緊急の感染制御部会議を招集し、本院の院内感染に係る原因調査、分析、再発防止策を検討させる。
- (4) その他院内感染が発生した場合の対応の詳細については別に定める。

第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針の内容を含め、職員は患者との情報の共有（本院ホームページ掲載）に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。

第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針

院内感染対策の推進のために「院内感染対策マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請に応じて、また、第三者機関の評価などを通じて常に改定・改善を図ってゆくものとする。

附 則

この指針は、平成19年6月19日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程

〔平成16年9月24日
制 定〕

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における院内感染の予防及び対策のため、佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 院内感染の予防に関する事。
- (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関する事。
- (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関する事。
- (4) 院内感染予防対策の確立に関する事。
- (5) 感染制御部の運営に関する事。
- (6) その他感染予防及び対策に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
 - (2) 感染制御部長
 - (3) 感染制御部副部長
 - (4) 検査部、手術部、材料部及び輸血部の各部長
 - (5) 薬剤部長
 - (6) 看護部長
 - (7) 栄養管理委員会委員長
 - (8) 歯科口腔外科の科長
 - (9) 診療科長又は副診療科長のうち若干人
 - (10) 事務部長
 - (11) その他病院長が指名する者若干人
- 2 前項第9号及び第11号に掲げる委員は、病院企画室会議の議を経て、病院長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第9号及び第11号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、感染制御部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行

する。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(代理出席)

第7条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、経営管理課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年9月24日から施行する。

2 この規程の施行後最初に委嘱される第3条第1項第9号及び第11号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

附 則 (平成17年4月14日改正)

この規程は、平成17年4月14日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則 (平成19年3月22日改正)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

院内感染対策委員会

* は併任を示す

	23年度	24年度	備考	
委員長 感染制御部長	青木洋介	青木洋介	感染対策担当看護師長 22.9.30まで出原あと、末岡 中島部長21.10.9まで 22.10.1から森田教授	
病院長	宮崎耕治	宮崎耕治		
感染制御部副部長	-	-		
感染制御部副部長	金子ゆかり	金子ゆかり		
検査部長	末岡榮三朗	末岡榮三朗		
手術部長	森田茂樹	森田茂樹		
材料部長	後藤昌昭	坂口嘉郎		
輸血部長	末岡榮三朗*	末岡榮三朗*		
薬剤部長	藤戸博	藤戸博		
看護部長	長谷川正志	長谷川正志		
栄養管理委員会委員長	後藤昌昭*	安西慶三		23.4.1から
歯科口腔外科の科長	後藤昌昭*	後藤昌昭		
診療科長または 副科長のうち 若干人	魚住二郎	魚住二郎		26年3月まで
	林真一郎	林真一郎		26年3月まで
	松島俊夫	能城浩和	26年3月まで	
	坂口嘉郎	松尾宗明	26年3月まで	
	木村晋也	木村晋也	26年3月まで	
事務部長	阿部文生	岩村和彦		
病院長の指名する者 若干人	宮本比呂志	宮本比呂志	26年3月まで	
	15名	17名		